

遠く離れた世界の問題を
自分事するには？



写真右から、^{さわさと}澤里さん、^{なかと}近藤さん、^{むらた}村田さん、^{まき}榎さん、^{りゅう}劉さん。

未来を描く！ 創る！

イノベーティブな
生徒たち

第9回

私たちにできることは何か？ 問い続けた「ウクライナの命を救う方法」

^{なかと}近藤まなさん(高校3年生) / ^{さわさと}澤里柚寿さん(高校3年生) / ^{まき}榎愛さん(高校3年生)

^{むらた}村田春菜さん(高校3年生) / ^{りゅう}劉伊晴さん(高校3年生)

北海道・私立立命館慶祥中学校・高校

2 022年2月24日、ロシア連邦が、ウクライナへの軍事侵

攻を開始した。戦火から逃れようと国境を越える市民の様子を伝える報道は、ウクライナから遠く離れた日本の高校生にも、戦争が現実にある恐怖であることを知らしめた。

「それまで、私たちにとって戦争とは、歴史上の出来事でした。しかし、命からがら外国に避難する女性や子どもの姿を見るうちに、この悲惨な現実に対して、私たちに何かできることはないのだろうか、仲のよい5人で話し合うようになりました」(近藤まなさん)

国際支援に取り組むNPOが主催する勉強会に参加したり、SNSで戦地の人々の状況に関する情報を収集したりしながら、自分たちにできる「1人でも多くの命を救う方法」について、検討を続けた。

「お金と物資、どちらを送るのがよいのか、そもそもどこに送るのがよいのか、皆の意見がまとまらず、連日、深夜までSNSや電話で話し合いました。最終的には、ウクライナの隣国のモルドバ共和国にお金を送ることが、一番効果的だという結

読者の先生方がご存じの「イノベーティブな生徒たち」をご推薦ください！

ご推薦いただける場合は、右の2次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。



教師たち



北海道・私立
立命館慶祥中学校・高校
3学年担任

里見直人

自分事にする生徒の力を 信じ、応援する

「ウクライナ避難民のための募金活動をしたい」という相談を受けた時は、受験学年を間近にした春季休業中に、そのようなことを計画していたのかと、驚きました。「モルドバ大使館にいきなり連絡しても大丈夫でしょうか」と聞くので、念のため、メールの文面を確認した上で、「うまくいくといいね」と、声をかけました。その後、生徒が作成した企画書を見て、最大の効果が得られる支援のあり方を粘り強く追求してきたことが分かりました。率直に、すごい生徒たちだと思いました。今回の活動を通じて生徒は、自分が一步を踏み出すことが、多くの人に影響を与えることを知ったはずです。学校では、1人の生徒の行動が、ほかの生徒にどんどん伝播します。世界の問題を自分事として捉えた新たな生徒が現れた時、その思いをくみ取って、見守り、応援することが、私たち教師の役割だと思っています。

論に至りました」（村田春菜さん）
意見がまとまったのは、モルドバが、欧州最貧国でありながら、人口1人あたりで最も多くの避難民を受け入れていること、そして、ボランティアが中心となって避難民のための炊き出しなどを行っていることを知ったからだ。そうした現状があるにもかかわらず、モルドバは日本での認知度が低いため、寄付が集まりにくいのではないかと、5人は考えました。そこで、駐日モルドバ大使館にメールを送り、寄付金の使途は避難民のための食料などの購入に限定するという約束を得た上で、3年生になった4月に、校内で募金活動を行う企画書を校長に提出した。

募 金活動は、同校の中学校内では、最終的には64万円を超えた。3日間、高校内で3日間、さらに札幌市内の街頭と保護者会イベントで1日ずつ実施した。
「高校の生徒会長の私は、中学校の生徒会に募金活動への協力を依頼しました。『武器の購入にお金が使われることは本当にないのか』といった中学生からの質問に対して、5人で話し合ってきたことを踏まえて、一つひとつ丁寧に回答していき「初めの街頭での募金活動は不安でしたが、募金だけでなく、応援の声をかけてくれる方もいて、多くの方が私たちの思いに共感してくれたのだと感じました」（槇愛さん）

モルドバ大使館に送った募金額は、最終的には64万円を超えた。「今までは、社会問題に関心を持つたとしても、どこかひとごとで、一步を踏み出すことができませんでした。でもこれからは、自分のできることをどんどんやってみようと思っています」（劉伊晴さん）
もちろん、一步を踏み出したその後の道のりは、平たんではなかった。「必要な支援を知るため、同じ年代のウクライナ人女性とSNSで話をした時、『平和に暮らすあなたにはきっと何も分らない』と言われてました。戦争で苦しむ人々たちへの支援だなんて、おこがましいのかもしれないと落ち込み、皆にも打ち明け

られずにいました。でも、皆が集めた情報や現地の声を聞くうちに、できることはやっぱりやってみようと、思い直しました」（村田さん）
世界の問題をひとごととせず、自分のできることをする。正解のない長い道のりを歩けたのは、ともに歩く仲間が隣にいたからだ。



札幌駅近くでの募金活動の様子。5時間の募金活動では、一般の人々から約17万円の支援を集めることができた。

学校プロフィール

設立 1996（平成8）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年318人
2022年度入試合格実績（現浪計）
国公立大は、旭川医科大学、北海道大、東北大、東大、京都大、大阪大、札幌医科大学などに78人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大、立命館大などに延べ476人が合格。